

道徳通信

～ 高速道路がサギのすみかになったわけ ～

愛西市立八開中学校
令和4年7月14日
3年生の授業

📌 「高速道路がサギのすみかになったわけ」を読んで、「自然」について考えました。

両親、正男、妹は、ゴールデンウィークに高速道路を使用して、祖父母の家に出かけた。蟹江インターチェンジを通りかかった際に、「鳥注意」の標識が正男の目に飛び込んできた。弥富インターチェンジ付近に近づくとも木々には、たくさんのサギが集まっていた。その光景を目の当たりにした正男は、「鳥注意」の標識について、調べることにした。調べた正男は、サギが活着ていることで、その周りには自然が保たれていることを知りました。この教材をもとに、「人間と自然の共存」について深めました。

●● ●● さん

人間は、もう十分にスペースをとっているので、動物たち用のスペースもあげるべきだ。不公平だと思いました。一つ一つの命を大切にしたいなと思いました。

●● ●● さん

人々が自然と共存していくには、片一方が生活を独占したりするのではなくそれぞれの視点に立ってお互いが納得していくのが必要だと思った。授業前までは標識は人間側が一方向的に気を遣って牽制するものだと思っていたけど、動物の存在そこに住む必要性を理解するために標識があるんだと思った。

●● ●● さん

自分達が使っている高速道路に動物が住み着いても、もとは動物の住処だったのかもしれない。自分達にも動物たちにもメリットがあるような共生できる社会になっていったらいいと思う。

●● ●● さん

人間と自然が共存するには、人間が動物側（相手側の立場）に立って物事を色々な視点から考える必要があると思った。相手側に立って気づくことはたくさんあるし、人間にとって便利なことも、動物側にとっては不便なこともあるので、Win Winになれるような選択をしないとイケないと思った。今は、海にゴミを捨てる人が多いのが問題になっているけど、そういうのも、人間だけが有利な行動をしまっている。つまり、海の生き物にとっては、海がゴミで汚れて住みにくくなってしまいうので、そういう行動も控えていかないとイケないなと思った。だから、自然とうまく関わるには、自然側にしかできないことをしたり、お互いにメリットがあることは何かをよく考えたりすることが大事だと思った。

●● ●● さん

野生の動物は自然界にいるから道路に出てきてもしょうがない。それは人間が勝手に道路とかを作っているから。それでも人間と動物が共生するためには動物をひかないなどの人間の心がけや、命を大切にすることが必要だと思った。

●● ●● さん

開発をするなどは言わないけど、今すでにされていることを、ビルの屋上に植物植えるとか、そういうことをするのが大事なのかなと思った。

●● ●● さん

人間にとって、急に鳥とかでてきたら危ないし、事故になったら車も人間も怪我するから標識で注意してあるんだと思っていたけれど、鳥が怪我しないためでもあることを知った。共存するのは簡単だけど、共生していくためには人間が何か工夫をしていかなければならないってところが、何をすればいいか具体的に案が思いつかないから難しいと思った。